

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会・ 委員会協議会(意見交換会)		会議場所 全員協議会室
			担当職員 佐藤
日 時	令和2年11月17日(火曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 3 時 46 分
出席委員	◎菱田、○赤坂、田中、小川、奥野、藤本、竹田		
出席理事者	【産業観光部】吉村部長 【商工観光課】三宅課長、栗林観光担当課長 【一般社団法人森の京都地域振興社】渡邊社長、中越総括部長、山田監理部長 【農林振興課】笹原課長、佐藤担い手支援係長 【新規就農者】森田氏、中川氏、日下部氏、戸田氏、小島氏 【上下水道部】阿久根部長 【総務・経営課】西田課長、人見副課長 【水道課】清水課長		
出席事務局	山内事務局長、佐藤主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員2名(大塚、平本)

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

【1 開議（菱田委員長あいさつ）】

[事務局主任より日程説明]

【2 案件】

[上下水道部入室]

[上下水道部長あいさつ]

（１）水道用水供給事業給水条例の制定について （上下水道部行政報告）

[総務・経営課長 資料に基づき説明]

1 3 : 3 8

【質疑】

<奥野委員>

1立方メートルにつき、112円は妥当な金額なのか。

<総務・経営課長>

亀岡市の水道事業全体で、南丹市に供給する。取水施設、送水施設、配水施設等の資産を活用する。その中で、市民が負担するメーター設置等の経費は除いている。全ての単価から除外する経費を引いて、112円とした。令和元年度の決算数値は、水を1トン送るための費用が、約128円であり、そこから、各給水に係る経費を

- 除いて112円とさせていただいた。
- <田中委員>
需要見込みは。
- <総務・経営課長>
年間50万立方メートルで、約5,400～5,500万円の収益を見込んでいる。
- <藤本委員>
単価112円は市に渡す値段なのか。
- <総務・経営課長>
水道事業体から、水道事業体への卸売と言われており、南丹市水道事業へ送水する単価である。各市民が受けられる単価ではない。
- <藤本委員>
南丹市もこの条例内容を理解しているのか。
- <総務・経営課長>
かねてより、基本合意や基本協定で、令和元年度の決算が出た時点で、単価を協議することが決まっていた。今年の夏頃から協議を重ねており、単価や条例などの合意を得ている。

13:43

[上下水道部退室]

【産業建設常任委員会協議会（意見交換会）】

[森の京都DMO・産業観光部入室]

（2）森の京都DMOのこれまでの主な取組及び今後の方向性について （森の京都DMOとの意見交換会）

- 1 開会（菱田委員長あいさつ）
- 2 開会あいさつ
（一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）社長あいさつ）
（亀岡市産業観光部長あいさつ）
- 3 意見交換テーマ「森の京都DMOのこれまでの主な取組及び今後の方向性について」

[森の京都DMO社長 資料に基づき説明]

14:03

【意見交換】

- <藤本委員>
「もうひとつの京都 周遊パス」について、亀岡市に影響しているのか。
- <森の京都DMO総括部長>
京都府の事業で取り組んでいただいている。非常に苦戦しており、これではいけないということで、第2弾として、しっかりPRしていこうと進めているところであ

る。今コロナ禍のため、車で来られる人が多いが、公共交通機関で巡っていただけて、楽しんでいただけるように進めていきたいと考えている。

<赤坂副委員長>

亀岡市観光協会との連携はどうなっているのか。

<森の京都DMO監理部長>

すみ分けさせていただいており、亀岡市観光協会は亀岡市、森の京都DMOは4市1町を担当している。ただ、亀岡市観光協会とはいろいろな事業でコラボさせていただいている。コスモス園やききょうの里、イルミネーション、サイクリング事業などのPRをさせていただいているので、連絡は密にしている。

<赤坂副委員長>

細かい連携は密にしているのか。

<森の京都DMO社長>

各市町の観光協会、各市町とは定期的に連絡会議を開催し、情報を共有している。福知山市から亀岡市までなので、いろいろあるが、実質的には亀岡市の比重が高く、亀岡市観光協会とは一番密であると考え。

<森の京都DMO監理部長>

亀岡市観光協会の楠会長が森の京都DMOの取締役をしていただいているので、関係性は密であると考え。

<赤坂副委員長>

コロナ禍で仕方がないが、もう少し、周りともコミュニケーションを取っていただきたい。

<森の京都DMO社長>

ホームページでいろいろなことを発信していくことに重きを置いているが、やはり、顔と顔を合わせることが一番大事であると考え。今、十分にできていないと感じるので反省すべき点である。

<菱田委員長>

当委員会では、森の京都DMOへの補助金等の予算・決算について、審査する際に、自分たちに見えていないことが多くある。今日のこの機会に森の京都DMOからアピール点があればお願いしたい。

<森の京都DMO社長>

このような場をもっと持ってもらいたい。勉強させていただきたい。

<藤本委員>

この前、トロッコ嵯峨駅で誘客イベントをされていたが、成果はあったのか。

<森の京都DMO監理部長>

「京野菜や亀岡牛は売ってないのか」とよく聞かれた。土日はそれなりに集客があったが、平日は少なかった。

<藤本委員>

京都観光の中で、亀岡の認知度が低い、PRの仕方・取組が弱いと感じるがどうか。

<森の京都DMO社長>

「京都から亀岡へは20分で行ける」ということをもっとPRしていかなければならないと感じる。プロモーションに大きなエネルギーを使ってやってきたが、まだまだ認知度が低い。認知度をいかに上げるかを、いろいろやっている。とにかく1回来てもらって、見てもらう、京野菜などを味わってもらうために、いろいろと引き続きやっていきたいと考える。

<小川委員>

森の京都DMOの柱は何か。

<森の京都DMO社長>

食・癒しの地・健康志向をPRしていく。

<小川委員>

ホームページでの発信もSNS等を活用して違う角度から発信していただきたい。

<森の京都DMO社長>

貴重なご意見をいただいたので、参考にさせていただく。

14:22

4 閉会（赤坂副委員長あいさつ）

14:23

[森の京都DMO・産業観光部退室]

<休憩 14:23～14:30>

[新規就農者・産業観光部入室]

（3）就農における現状と課題について

（新規就農者との意見交換会）

1 開会（菱田委員長あいさつ）

2 開会あいさつ

（亀岡市産業観光部長あいさつ）

3 意見交換テーマ「就農における現状と課題について」

（1）自己紹介と現状の取組について

[意見交換]

<菱田委員長>

まず「自己紹介と現状の取組について」意見を交換したいと思う。新規就農者5名の方それぞれ、自己紹介を兼ねて、現状の就農状況の取組について説明いただきたい。

<森田氏>

旭町で農業をしており、現状は2人の雇用者を育てることに集中している。春菊をビニールハウス8棟で栽培し、日量500～700袋出荷している。お世話になっている旭町を盛り上げたい気持ちで、コロナ禍ではあるが、新規就農者や地域の方たちと力を合わせて、人を呼べるイベントや魅力を伝えるにはどうすればよいか日々仲間たちとともに模索している。また、グループを作り、食育にも力を入れている。

<中川氏>

馬路町で農業をしており、独立して3年目になる。JAの直売部会に所属しており、

少量多品目で毎日出荷できるようにしている。春菊やえびいもを中心に出荷している。

<日下部氏>

東本梅町で営農をしており、なすやトマトなどを栽培している。中山間地であり、リタイヤされる方が出てきており、水稻が徐々に増えている。今後は、栗畑が放置されているので、手を入れていきたいと考えている。

<戸田氏>

曾我部町でいちごを栽培している。東京出身だが、農学部で農業経済を学んでいたときに、農業が衰退すると感じ、金融機関で勤めて、お金を貯めてから営農を始めた。約30アールの土地でいちごを栽培している。従業員1人、パート3人を雇用している。脱サラ組で、代々土地があるわけではないので、低収量・高単価しか道がない。1つのいちごをどのように高めていくかを日々考えて経営している。今後は、いちごだけでは、ロスが多いので、六次産業化をして、ジェラートを作っていると考えている。

<小島氏>

篠町で営農している。いちごとレタス、ルッコラを栽培している。環境制御し、ビニールハウス内の環境を制御することによって、農薬を少な目にして、夏場・冬場でも安定的に葉物が供給できる農業に取り組んでいる。今後は、広域の認定農業者の認定を取得しようと思っており、他市でもビニールハウスを建てて営農していく予定である。

<菱田委員長>

新規就農者5名の説明に対して、質疑などあるか。

<藤本委員>

皆さんすばらしい取組をされていると感心している。戸田さんのいちごは新聞にも取り上げられていて、ふるさと納税の返礼品にも使われているが、たくさん出ているのか。

<戸田氏>

去年は2,000万円ほど出た。

<藤本委員>

いちごはスーパーにも売っているのか。販売ルートは。

<戸田氏>

市場に出荷してしまうと、よいものも、悪いものもグラム幾らになってしまうので、一流のパティシエや高島屋の外商を訪ねて足を運んだ。そうすると信頼ができ、いろいろな人に紹介してもらえるようになり、徐々に拡大してきた。

<菱田委員長>

小島さんもいちごを栽培されているがどのような取組をされているのか。

<小島氏>

去年からふるさと納税を依頼されていたが、量が足りなかったのでできなかった。今年からさせてもらう。施設園芸で環境制御を行っており、少ない農地面積で、どれだけたくさんのおいしいいちごを採れるかを考えて栽培している。直売所で力を入れて、安価な値段で販売している。

<菱田委員長>

亀岡は果物が弱いですが、日下部さんは先ほど栗の栽培を行うと言っておられたが、今はどのような状況か。

<日下部氏>

祖父の代は出荷していたが、今は手つかずで夏に草刈をしているのみである。今後は、雇用を進め、栗の栽培に力を入れていきたい。

<奥野委員>

今在住している場所と、就農の場所が違うのはなぜか。

<森田氏>

家を探しているが、空き家はあるが、売るか子どものために置いているかで、お借りできない状況である。

<中川氏>

Iターンで兵庫県から亀岡に移住したが、すぐには家が見つからず、最初は保津川団地に住んでいた。農家住宅をほ場の近くで探しているがなかなか見つからない。今は、農家さんの紹介で曾我部町の農家住宅を借りて住んでいる。売り家はあるが、借りることはできない。農業に資金があるので、家を買うまではいかない。

<小島氏>

たまたま、畑野町に父の持ち家があったので、そこに住んでいる。

<奥野委員>

行政として、就農しやすいような取組をしてあげてほしいと考えるがどうか。

<農林振興課長>

空き家バンク等を紹介しながら、地域に根差した農家を育てようとして取り組んでいる。家については、売り手の事情もあるので難しいところもある。今後、高齢化が進む中、地域の中で人口を増やしていく手立てができればよいと考える。

<奥野委員>

せっかく、若い方が前向きに頑張っているから、地域の地主の間に入るなど積極的に動いていただきたい。

<菱田委員長>

戸田さんもIターンで亀岡に来られたが、今住んでいるところを選ばれた理由は何があるのか。

<戸田氏>

亀岡の人は、よそ者に対して、警戒心が強く住みにくいところは正直ある。私も、いろいろ怒られて、3年間ぐらいあいさつをし続けて、ようやく話しかけてもらえるようになった。なかなかの忍耐が必要であるので、行政や議員さんに間に入ってもらって、きっかけ作りの手助けをいただきたい。

<菱田委員長>

日下部さんはUターンで亀岡に戻って来られたが、何か感じたことはあるか。

<日下部氏>

高校を出てから、12年ほど東京に住んでおり、亀岡に戻ってきた。地元だが、最初の2～3年は溶け込めていなかった。あいさつをし続けたり、消防団に入ったことなどにより、ようやく打ち解けた感じがした。土地柄もあるのだと思うが、苦労はあった。

<藤本委員>

日下部さんは栗を今後栽培していきたいということだが、丹波栗など有名で神戸のスイーツ業者が直接契約して栽培しているところもあるが、そのようなことは考えていないのか。

<日下部氏>

飲食店等と直接つながれるほうが、メリットが大きいので考えている。また、観光農業として体験を売るという取組もしていきたい。

<藤本委員>

戸田さんは曾我部町で玉ねぎを栽培されているが、〇曾玉ねぎも手掛けているのか。

<戸田氏>

やりたいが、そこまでの地盤をまだ固められていない。まだまだいちごも半人前なので、そこしかできていない。地元の人とつながりを持つことはとても大事だと考えるので、雇用が増えて、ある程度利益が出てくれば考えたいと思う。

<竹田委員>

水稻について、高齢化している中、若い人にやってほしいという要望が出てくると思うが、水稻をやってもよいと考えているか。

<小島氏>

興味はあるが、初期投資のコンバインやトラクターの経費を考えると敷居が高いというイメージがある。水稻で経営を成り立たせるためには、ある程度の面積が必要になるので、広範囲を頼まれれば変わるが、現状は自分ができる野菜を栽培していきたいと考える。

<戸田氏>

私は、産業としての農業を目指しており、北海道のような広大な面積があればよいが、水稻は農地が点在しているところに入るのは難しい。お米の価格も下がっており、消費も減っている中で、海外に販路を見いだせる可能性が出てくるまでいけるならいきたいが、個人では難しいと考える。

<日下部氏>

今、引退される方が増えていて、年に5反ぐらいずつ頼まれて増えている。父親は農業をまったくしていなかったなので、初期投資だけで1,000万円は軽く越えてしまう。今後、保全という形で水稻を行うのであれば、ある程度、建物や機械を導入する際に補助を出していただきたい。やりたいけれども、やれない状況である。

<中川氏>

馬路町や河原林町、保津町は営農組合が土地利用型農業をやられているので、私は個人でできる農業をやっていく。

<森田氏>

旭町は農事組合法人旭があるので考えていない。高齢化を考えると将来的にはできればと思うが、今の私の力では余裕がないので考えられない。

<竹田委員>

現状は、集団化しなければできないと思う。成功した中で、横のネットワークができて、地域の枠を離れた組織づくりを若い人の力でできればと考えるので、頭の片隅に置いていただきたい。

15:07

(2) 今後の取組と行政に対する要望について

[意見交換]

<菱田委員長>

次に、今後の取組と行政に対する要望について意見を交換したいと思う。新規就農者5名の方それぞれの、今後目指していく就農の取組とそれに係る行政や議会に対しての要望・支援についての思いをお聞かせいただきたい。

<森田氏>

今後は、認定農業者の取得と雇用を増やし、人材を育成し、法人化による規模拡大を目指していきたいと考える。要望については、大規模農家の視察や技術向上の勉

強会を充実していただきたい。また、農業機械や農機具の補助、まちおこしのための補助を充実させていただきたい。

<中川氏>

今後は、1人で農業していくことに限界を感じているので、雇用を入れて規模拡大していきたい。要望としては、機械類の補助と、行政のほうからは、栽培に関する指導や、地域との交流をスムーズにできるような環境を作っていただきたいが、経営という面ではアドバイスがあまりないので、シビアに指導していただきたい。すぐに離農する人も出てくるので、新規就農者に厳しく言っていく必要があると思う。

<日下部氏>

今後は、ブルーベリーの栽培と観光農園をしたいと考える。また、従業員が4人いるが、1人を正社員にして、法人化していきたいと思う。要望としては、農業はイメージが先行する産業になってしまっていると危機感を持っている。経営が見えておらず、入ってきててもすぐに辞めてしまう。現場をしっかりと見ていただいて、農業の実際を理解した上での情報発信が重要になってくると考える。農地が近いので、議員さんにも実際見ていただいて、知っていただきたい。

<戸田氏>

いちごのジェラートを作ろうと考えているが、水道の送水管を引くのに300万円ほどかかるので、インフラ面が厳しいと感じる。

亀岡市は中核市から非常にアクセスがよいのに、観光面では身になっていないと感じる。コロナ収束後には、京都にインバウンドがたくさん来られると思うので、引っ張って来ていただくようお願いしたい。また、外部から来た人に対するネットワーク作りをフォローいただければありがたいと思う。また、有機栽培のまちと言っているが、JASを取っていない状況がたくさんあるので、国のルールにのっとったJASを取るべきである。

<菱田委員長>

先ほどの有機の件については、先日桂川市長と意見交換をして、自称有機では有機JAS法に対応できないので、これからJAS法にのっとった手続きを踏んでいくと市長がおっしゃっていた。また、今後お気づきの点があれば教えていただきたい。

<小島氏>

要望としては、GGAP、JGAP取得の補助をお願いしたい。認証を取っていることが、インバウンドを狙っていく上でも重要であると考えますが、個人で取得するのは難しいので協力していただきたい。また、スマート農業シティーとして、頑張っている若手がスマート農業化できるように補助をお願いしたい。

<菱田委員長>

理事者からこれらの要望に対して、今補助できている部分があれば教えていただきたい。

<農林振興課長>

有機JASの関係については、市としても支援を模索しているところである。GAPについては、まだ有機JASまでは至っていないが、国際的な基準であるので今後も勉強しながら進めていければと考えている。また、研修機会についても、充実させていきたいと考える。

<菱田委員長>

当委員会では、行政がもっとマネジメントすればよいのではないかという話を常々している。亀岡市には専任マネージャーがおられるが、地域と皆さんをつなげることや売り先を一部紹介するなどの業務が多く、もっと亀岡農業全体をプロデュ

ースするようなマネジメントができないかと考える。

<赤坂副委員長>

スペシャリストのコンサルを入れて、作物をプロが売りに行くなど、お金をしっかりかけていく必要があると考える。雇用が少なく、若い人が入ってもうまくいかないことが多いと思うがフォローをどうしているのか。

<森田氏>

雇用は2名であるが、雇うまで随分悩んだ。この7年間は、技術向上のために努めて、ほぼ売り上げがなかった。今は自分に自信がついたので、2名雇用しているが、今後増やしていければと考える。

<中川氏>

今は雇用事業の補助を使っているが、来年からは、雇用しようと考えている。雇用をしっかりと入れて、農業経営をしておられる方はベテランの方ばかりである。

<日下部氏>

農業で一番大切なのは人であると考え。1人でできることは限られるし、人材育成は大きな課題である。常に育てることを意識して取り組んでいる。以前、1人常雇いしていたが、未熟さゆえに失敗したこともあったので、人材育成について今後も力を入れていきたい。

<戸田氏>

人は企業の存在価値になるので、雇用を生み出すのは企業の責任であると考え。人材の質が大事である。入ったからには大事にしていきたい。今後も柱となってくれる仲間を増やしていきたい。

<小島氏>

3人を常時雇用しているが、忙しかったり、暇だったりするので仕事をどのように割り振っていくかを常に考えている。

<赤坂副委員長>

機械以外に補助してほしいことなどはあるか。

<小島氏>

農業書籍や大規模農家視察時の旅費の補助をお願いしたい。

<日下部氏>

従業員の大型特殊免許の取得支援があれば助かる。

<森田氏>

中古トラクターを購入したが、補助の対象外だったので、中古品も補助の対象にしていきたい。

<中川氏>

新規就農者が農業を始めるにあたり、市が農地をあっせんしてくれるが、当たり外れがあるので、土壌分析をしっかりとしていきたい。痩せている土ならば、亀岡市土づくりセンターの土を年間、50アール20～30万円ぐらいでまいてくれるが、最初は補助があってもよいのかなと思った。

<戸田氏>

最初ビニールハウスを建てるときに、補助がなかった。設備栽培を市として押していくのならば、補助をお願いしたい。

<藤本委員>

今後も潰されずに、勝ち抜いていってもらいたい。行政は就農者の思いをよく聞いて、何でもさせていただくぐらいの気持ちでフォローをお願いする。

<菱田委員長>

議会としては、予算のチェック機能があり、今日いただいた意見を取りまとめて、理事者に提言することもできる。そういった観点から、今後も議会として、亀岡の農業振興のために取り組んでいきたいと考えるのでよろしくお願いします。また、機会があれば、議員にお声を聞かせていただきたいと思いますと思う。

15 : 43

4 閉会（赤坂副委員長あいさつ）

15 : 45

[新規就農者・産業観光部退室]

【3 その他】

＜菱田委員長＞

次回は、12月15日（火）、午前10時から、12月議会の議案審査となるのでよろしくお願いします。

解散 ～15 : 46